

# Saiyu Fund

[西遊基金]

寄附に込める想い

## バイタリティ溢れる 若者を育ててほしい

株式会社ささや  
代表取締役

ささもと つよし  
笹本強志さん

弊社は、長崎県内を商圏としたユニフォームの卸販売業を営んでいます。もともとミシンの修理が専門だった父の笹本長四郎が、戦後にカッターシャツや下着などの既成品の販売を開始。それと並行して、大工職やとび職の皆さんが着用する「タンクズボン」の別注生産が入ると商売は軌道に乗り始め、本格的な起業に至ったと聞いています。

当時は27坪の社屋に20人ほどの職人が住み込みで働いていました。私自身、その環境の中で大事に育ててもらったおかげで、周囲の人々に配慮する気持

ちが自然に芽生え、経営者としての指針につながりました。

父の代から、地道に営業努力を重ねた結果、現在の顧客数は県内4000社ほど。例年200社前後の新規取引先を獲得しています。これまでに長崎大学水産学部の乗船実習の作業服や船員服などの製作、長崎大学病院の皆さまとマタニティ用の看護衣を開発させていただいたこともあります。さまざまなニーズがある中、新規起業されるお客様の多くが、ユニフォームに対する思い入れが強く、ご要望をどのように形にするのか、高い

営業力が求められています。経験を積んだ社員も若手社員も、常日頃からチャレンジ精神をもって、飛躍してほしいと伝えています。

西遊基金には、これまで個人名義で寄附させていただきましたが、創業85周年の節目にあたり、昨年、「株式会社ささや」として利益の一部を長崎市、長崎大学、長崎大学病院に支援させていただきました。長崎の企業として、物心両面から幸せを追求し、地域社会に貢献していくことを願い続けて



2025年10月22日、笹本茂子専務様(写真左から2人目)をはじめ、(株)ささやの皆さまに来学いただき、大学関係者への目録贈呈式を執り行いました。

ネット販売が主流となる中、直接お客様と向き合える強みを活かし、社員一人ひとりが誠心誠意努めています



笹本強志さん

きたため感慨無量です。少額であっても、地域あるいは教育機関の発展につながる一つの石ころになることができると考えています。

一流企業に勤めていても、短期間で辞めてしまう若者が増えているそうです。大学のカリキュラムの一環として、長期にわたって企業現場を体験できる機会や地場企業と深い関わりを持つ時間を増やしていただくと、一人でも多くのバイタリティ溢れる人材が育つのではないのでしょうか。そういった期待も込めて支援させていただきました。ほかにも、市民向けの公開講座の開催など、大学と地域がつながる学びの場の創出にも活用いただくと嬉しいです。



創業は昭和14年。「私が3歳か4歳の頃、本籠町(現在の籠町)から川口町に移ってきました。籠町の龍踊の衣装を縫ったことが父の自慢でした」と笹本さん。

株式会社ささや  
長崎市川口町6-29  
TEL.095-844-6161

大学への支援はこちらから

### 卒業生イマナニシテル!?

卒業生の思い出や現在の様子を知ることができる「卒業生イマナニシテル!？」が『Web Choho』限定で公開されています。皆さまのお知り合いが登場するかもしれません。また、記事投稿も随時募集しております。ぜひご覧ください。



<https://choho.nagasaki-u.ac.jp/tag/alumni/>

## 西遊基金



「西遊基金」は、長崎が長年にわたって培ってきた個性と伝統を基盤に、地域の発展から地球規模の課題まで、さまざまな問題を解決するための傑出した人材育成を目指した、長崎大学独自の修学支援と、教育・研究の幅広い支援を目指した基金です。  
TEL:095-819-2155